

あじさい

石川県ことばを育む親の会

第55号

2011年6月11日発行

発行責任者 大森克成

〒921-8845

石川県野々市町太平寺2-9

TEL/FAX (076) 248-6303

E-mail/aihuru@po4.nsk.ne.jp

新年会したよ

山岸 夏子

一月二十三日(日)教育プラザ富樫での新年会に参加しました。今回は企画段階からお手伝いすることになり、大森さん夫妻からニッセイ財団の助成金で購入した大型絵本やおもちゃなどのお披露目や調理室でのクッキングなど計画していることを聞き、河辺さんとその準備にあたりました。

とは言え、準備段階でどこまで密に決めたら良いのか、何を準備したらいいのか、なかなか考えられず、当日も子どもたちに何を手伝わせたらいいか上手く伝えられないまま、私自身はいきあたりばったりで調理にとりかかりました。幸い河辺さんの段取りの良さに終始助けられ、子どもたちも野菜を切ったり、おにぎりを作ったり、

皿や調理器具の洗いものなど楽しんで夢中になって取り組んでいたようで、

おいしい豚汁とおにぎりができあがり、たくさんの人たちがおかわりして、みんなでいただくことができました。

息子(小3)はいつも苦手な野菜など家では残すのに、みんなと一緒にのためか残さずおかわりして食べていました、娘(三歳)はお姉ちゃんお兄ちゃんに遊んでもらいとって

も楽しそうにしていました。家でお手伝いしている子はもちろん手際良く作業にあたっていましたし、不慣れな子も何かできることはないかと探していて、お願いするととって一所懸命作業している姿に感心しました。



小松・加賀地区 教育相談会

平成二十三年一月三十日（日）、「小松・加賀地区教育相談会」を小松市第一コミュニティセンターで行ないました。東智美特別支援教育士の先生をはじめ、ことばの教室の先生方や勝木準石川県言語聴覚士会会長や言語聴覚士の先生、ろ



う学校の先生から相談を受けた後、アスベの会、エルデの会、難聴児を持つ親の会などの先輩の親に日常のさまざまな悩みを聞いてもらっていました。

毎月十一日、御経塚イオン 黄色いレシート事業で 親の会を紹介

平成二十三年四月二十四日、野々市町御経塚イオンの「黄色いレシート事業」による寄付を受けました。今回の黄色いレシートによる協賛金は一万四千七百円でした。ありがとうございます。インクなど事務用品やおもちゃ、お茶などを購入しました。

毎月十一日には、御経塚イオンで買い物をした黄色いレシートを、石川県ことばを育む親の会の箱に入れてください。

明成・額小学校きこえの教室 クリスマス会

十二月十日、十六日に金沢市明成小学校、額小学校きこえ



の教室のクリスマス会に大森会長が参加し、親子でゲームを楽しんだり、保護者との懇談会をして、様々な話や要望を聞きました。

このなかで「中軽度難聴児への補聴器の補助を行政に要望する」ことがまとまり、準備を始めることになりました。

羽咋小学校ことばの教室 卒業生を送る会

二月二十六日、羽咋小学校こ

とばの教室の卒業生を送る会に大森会長が参加し、親子でゲームを楽しんだり、保護者との懇談会をして、様々な話を聞きました。七尾市小丸山小学校ことばの教室からも先生と保護者が参加し、交流を深めました。

太閤山小学校ことばの教室 卒業生を送る会

三月五日、富山県太閤山小学校ことばの教室の卒業生を送る会に大森会長が参加し、親子でゲームを楽しんだり、保護者との懇談会をして、様々な話を聞きました。

太閤山小学校へは今年で三回目。バイタリテイ溢れる高島先生の熱い思いが教室の雰囲気を楽しく活気あるものになっています。

親子ゲームに子ども達も慣れて、皆の前で大きな声でゲームを進めることができるようになってきました。子ども達にひとつでも自信がつくことを伝えたいと思っています。

「ぼんぼり」の「歩」①

大森 克成

難聴児がことばで話すことを目的に、「聴覚を活用した口話」による難聴児指導を親の会で四月から毎月一回、金沢市教育プラザ富樫で始めました。

一、難聴という障がいの特性

難聴はコミュニケーションと情報獲得に不利な障がいである。

- ① 一生続く障がいである。
- ② 二十四時間続く：眠っている間も続く障がいである。
- ③ 聞こえないということは：親が本人に教えたことばしか知らない。⇒本好きな子どもにする目的は、自分で情報を獲得する手段を与えるためである。

◎ことば（会話、文字、手話）

を獲得する目的は？

↓子どもが自ら考え、職業を持ち、自立するためである。

◎話しことば⇒人とのコミュニケーションを円滑にするため

一番有効な手段である。

◎日本語は、話すことができても五〇音を書ければ、文章の読み書きができる。

二、ことばかけの仕方：その1

①基本は一人二役：本人が話すことばも親が言っている。⇒難聴児へのことばかけの特徴

②子どもの方から「伝えたい」という気持ちで育てる。

↓「あー」と言うことばや指差しには「あー、そうだね」と肯定的に返事を返す。

③話しかけた分だけ反応（ことば）を聞く。⇒一方通行にならないで会話を促す。

④ことばの最初は喃語、身振り指差し⇒それに対してことばで相槌を打つ、子どもの言葉を繰り返す。ことばは身体全部（手、顔、声、動作）を使う。

⑤物の名前だけでなくことばに広がりをも！

(例) 「これはりんごだね」「リンゴは赤いね」「リンゴは丸いね」「包丁で割って食べようね」「リンゴはおいしいね」「リンゴは固いね」：「リンゴは寒いところで獲れるんだよ」「青森県とか長野県とかで獲れるんだ」「リンゴ狩りついでうのがあつてね」：…

⑥子どもに聞こえる声で話す。

【基本】膝に抱っこして顔を見て、丁寧に、少し大きめの声で話す。親は自分の声が伝わる大きさを覚えておく。

⑦難しいことば・おとなのことばもどんどん使う。

⑧廻りには音がいつばいあることを知らせる↓雨垂れや雨降りの音、風の音、木の葉の音、回りで話している声：…

↓聞こえる子どもは、廻りのおとなのことばや会話を聞いてことばを覚えるが、聞こえない子どもには親が話しかけないと音や会話そのものがあることを知らない。

三、信頼できる専門家の先生を持つとう。

四、よきライバルとよき友だち、そしてよき先輩を持つとう。

金沢地区 教育相談会

◎と き 7月10日(日) 10:00~16:00

◎ところ 教育プラザ富樫3号館

県親の会では金沢地区で発達障害・難聴・吃音・構音障害・ことばの遅れなどことばに悩みや不安を持った子どものための教育相談会を開催します。相談員としてきこえとことばの教室・特別支援教室の先生方やろう学校の先生方、言語聴覚士の先生方などの協力を得て行ないます。

